

2005 年国際産業連関表の作成と利用

Compilation and Use of the 2005 International Input-Output Tables

(猪俣哲史・桑森啓編)

Edited by Satoshi Inomata and Hiroshi Kuwamori

2010 年 3 月

独立行政法人日本貿易振興機構

アジア経済研究所

はじめに

近年の発展途上国の経済発展には目を見張るものがある。アジア太平洋地域においては、2001年の中国のWTO加盟をはじめとする市場開放により、ヒト・モノ・サービスの移動が拡大し、日系企業を中心とする外資の生産拠点の再配置が進展した。一方、最近では、BRICs (Brazil, Russia, India, China) と呼ばれる新興市場国が、目覚ましい勢いで発展を遂げつつある。

このように、急速に複雑化する世界経済の相互依存関係を解明するため、アジア経済研究所では、現地の共同研究機関とともに、2007年度より5年計画で2005年を対象とする国際産業連関表（アジア、BRICs）の作成事業を開始した。

本研究会は、この2005年国際産業連関表の作成事業に付随して実施しており、作成方法や分析方法について検討を行っている。3年目である2009年度は、雇用表や関税率表などの付帯表の作成および国際産業連関表作成のためのプログラム開発などを行うとともに、さまざまな分析を行った。本報告書は、その成果をまとめたものである。

本報告書は2部構成となっている。第Ⅰ部では、主として国際産業連関分析の理論的考察や国際産業連関表を用いた分析結果が報告されている。分析では経済危機の分析やFTAの効果などタイムリーなトピックが扱われており、国際産業連関表の応用分野の拡大に資することが期待される。第Ⅱ部では、国際産業連関表の作成方法（コンピュータ・プログラム、データの推計方法）に関する検討結果が報告されており、作業効率や表精度の向上に資することを目的としている。

なお、最終成果である2005年国際産業連関表は、2011年夏に完成し、統計資料シリーズ（SDS: Statistical Data Series）として刊行する予定である。

2010年3月

編者しるす